

151号  
Spring  
2020

ま  
ご

ころ

け  
あ



全国まごころケアネット



ハナミズキ

# CONTENTS

巻頭言 「オリンピックク」

1

孫子老だより ～健康管理はユーモアと笑いで～

2～4

センターだより

5～9

まごころエッセイ「七十五歳の新人」

10～11

寄稿「戦争体験を継ぐ」

11～16

事務局通信

16

# オリンピック



特定非営利活動法人  
日本ケアシステム協会  
会長 兼間 道子



米紙ニューヨーク・タイムズが、「五輪を中止せよ」と掲載。コロナウイルスが蔓延すると指摘し「開催は無責任」だと。オリンピック委員会や日本政府の予定通り開催という対応を批判している。同感、反対、賛否両論どちらの言い分も一理ある。

オリンピックに出場するために、血のにじむ努力と試練を乗り越えた選手の日々を思うと、延期、まして中止などと簡単に発表できない。準備に取り組んだ関係機関にとっても苦渋の決断を迫られるだろう。ただ、選手にとって重要な、健全な環境がないと競技は成り立たない点を考慮すると、開催は難しいという選択になるだろう。

さて、先の東京オリンピック開催の時期、私は10代の女学生。教科書を封じて昼休みも惜しんで体育館に通った。朝練、夜までフリスロー練習に明け暮れた。

「私、以前の東京オリンピックに、出た」と言ったら、その場が騒めいたことに気づいた。私は、急いで、「オリンピックに出たのではない、聖火ランナーで走った」。と、訂正はかなわず「うわっ、凄い」と。

そこで、さらに「聖火ランナーじゃない、大勢の人たちと一緒に走った。」つまり、随行者として走ったと再訂正。オリンピックに出場してないし、聖火ランナーとして走ってもない、赤面の至り。「なんじゃい、大風呂敷」。がっかりムードがたちこめた。

あの時の、聖火ランナー（随行者）の人選は前年に国体やインターハイ等に出場した学生が選ばれたことは事実だし、「細かいことはいわないで」と顔に書いてあるらしい。4年ごとのオリンピック開催時期になると、このエピソードを話題に、大袈裟に面白いが家族ら。あれから早50年以上が過ぎた。

オリンピックを支える関係者へ贈る言葉は「向こうへ向こうへ」。

# まごころ 孫子老だより

## 健康管理はユーモアと笑いで

みなさまお元気でしょうか。

風邪などひいていませんか。例年、東京では1cmの積雪で大騒ぎしていたのが、今年の冬は、異常な暖冬で廃業に追い込まれたスキー場がニュースにもなりました。新型コロナウイルスの感染が拡がり、死亡者も出ています。事は国家の異常事態と感染封じ込めに色々と対策をしているようですが、インフルエンザ予防と同じく手洗い消毒、うがい、洗顔、マスクの着用、不用不急な用事で不特定多数の集まる場所に出向かない。などの基本的な対応をしてゆくしか感染対策はないようです。

また、軽はずみなSNSの発言、書き込みを信用せず。トイレトペーパーやティッシュペーパー、生理用品、紙おむつ、お米、カップ麺が品切れする。花崗岩や玄武岩に殺菌作用があるなどのデマや噂は、無視することです。

その情報が正しいか、そうでないかの見極める上で気に掛ける頭文字を取って『かちもない』＝『価値も無い』と覚えたら分かり易いという記事がありましたので紹介します。

【か】..書いた人はだれか? ↓信頼

できる専門家か、所属が  
やしいかも

【ち】..違う情報と比べたか? ↓他  
の多くの情報とは全く違  
うかも

【も】..元ネタ(根拠)は何か? ↓  
引用文献がなければ勝手に  
言っているだけ

【な】..何のために書かれたか? ↓  
商業目的で広めているので  
はないか

【い】..いつの情報か? ↓古くて現  
在では違うかも

『かちもない』は、「情報はこの5つを確認しないと『価値もない』」と覚えましょう。公的機関からの情報をよく聞いて、症状が出たら、まずは、近隣保健所に、電話などで問い合わせしてから行動するようにしたいものです。

このコラムが読まれるころ

には、各大型イベントの実施と中止が発表されていることと予想しますが、史上最大の下剋上と盛り上がった初場所で番付最下位の徳勝龍が大関貴景勝を破り、奈良県出身力士では98年ぶりの優勝した陰で泣いた正代(いまだに「まさよ」と読むクセが直りません)面白くなってきた大相撲ですが、春場所が無観客相撲となり、残念な本場所となりました。

東京オリンピック・パラリンピックは、どうなるのでしょうか、恐らくアメリカ、中国、西欧諸国の不参加表明などかきつけて中止もしくは延期となる公算が強いのではないかと予測します。春のセンバツ甲子園は、残念ながら中止となりました。他に日本国内で開催予定の世界大会、全国大会も中止または、延期。場合によっては他国開催に変更になるような気がします。これまで一生懸命練習や体力づくりに励んできた選手は、本当に気の毒です。



## 昨年末、除夜の鐘が騒音だと

問題になってきている話題に、時代は変わってしまったと嘆いていたら追い打ちをかけるように、還暦を迎えた森昌子が芸能界引退宣言。シヨックから立ち直れずにいたところに麻丘めぐみ(64)が29年ぶりの歌手復帰のニュースでやっと立ち直ることができ、無事に新年を迎え、例年のごとく、おせち料理から始まり春の七草粥、節分の恵方巻き、バレンタイン、ホワイトデーと食べ物シリーズが続いて食傷気味になったところで一旦ダイエットでもしようかと思ったら花見に誘われ花より団子で痩せるヒマがありません。

恵方巻きのあの下品な一本喰いは、いったい誰が始めたのでしょうか?しかも無言で食べるのが作法との説。私は、巻きずしは、切ったやつを一個づつ味わいながら食べるのが美味しいと思っているので、あのような食べ方でのどに詰まらせて事故でも起きたら誰が責任をとってくれるのでしょうか。恵方に向いて無言で食べる姿は、どう見ても不気味です。

## 今春、二男の大学進学が決ま

り、恐れていた4月がやってきます。それは我が子にスネをガリガリかじられて骨が出てくることの恐怖もあります。中高年の夫婦へ人生に二度訪れる恐怖の体験月、その①の始まりです。

1回目は、子供がいなくなった夫婦二人だけの生活の始まり。ペットでもいたら気もまぎれるかもしれないですが、あらためて話すこともありません。「明日は晴れるかしら?」旦那「ああ」「私、明日は、女子会で遅くなるから」返事「ああ」カラスの鳴き声のような返事で会話が続きません。そのうち「おい」「なに」「あれ」「それ」「これ」「うん」「はあ」などの二言会話でこれから暮らしてゆくのでしょうか?

2回目はダンナが定年退職して明日から毎日家にいる日が訪れる初日です。奥様は、それまで適当に食事して出かけたりしていた日常が、退職の翌日から朝ごはんを食べながら「今日の昼飯は何だ?」と聞いてくるダンナに「イラッ」「私お買い物に行ってくるから」「俺も行く」で「イラッ」「毎日、朝ドラばかり見

て何が面白いんだ?」で「イラッ」今も昔も亭主元気で留守がいい、夫婦円満の秘訣は、主人が死ぬまで働いてくれることです。

## という多くの奥様の願いを中

高年男子は、素直に受け止めなければ令和時代の老後を円満に過ごすことはできません。「妻のトリセツ」を完読し、その生態を理解して、命の次に大切な愛妻に対し尊敬と愛情と思いやりを持って接していけば、余生は、より充実するはずですよ。

敵は男性ホルモンの増加でアンチエイジングだ、美肌作りだ。と益々元気になるれ、一方、自分自身は性ホルモンの減退から男性更年期障害も珍しくないと言われるようになり



ました。毎度のように主語が無い奥様から投げかけられる、なぞなぞのような話題に生返事で答えていると、きままる漫談のごとく「ねえ聞いてんの?」と言葉のハラスメント攻撃。自分の話は何度も繰り返し言うくせに、人の話は半分も聞いてない素直という二文字の対極にいる彼女らの毎度オチの無い井戸端の奥の方の会話の波状攻撃にウンザリして立ち上がって他へ行こうとしようものなら後頭部から浴びせてくる

日常不満と健康不安となぜ痩せないのか?と毎日のように繰り返し聞く禅問答。「それはお前の生活習慣のせいだ!」と言葉にしようものならパワハラ、セクハラと逆切れで、しかも慰謝料付とくる。

## 慰謝料もピンキリで食事、旅

行で収まるときもあれば、腹の立ち具合で、服やらバッグや宝石までエスカレートしてしまう時もある。どれほど中高年女性は食欲なのだとその腹回りを見てあらためて納得していると「どこを見てんの?」といったもの言いがかり。完全に言葉のおおり運転です。

ホルモン低下でただでさえ去勢気味な中高年男子たちは、年々弱り始め、いろいろなものが体から抜けはじめ、長い友達のはずだった頭髪を皮切りに、歯周病で歯が抜け「先生、インプラントっていくらぐらいするのですか？」と聞くと「そうです、相場は1本30万円ぐらいでしょう、保険が出ませんから」とつれない返事「中高年の方の場合悪い歯の前後も治すことが多いので最低2本で60万円ですね」と、だまって聞いていたら、懐具合を察してか「〇〇さん入れ歯は保険適用ですよ」入れ歯か。嫌だなあと歯医者に行くたびに考え込む日々。カツラをかぶるか入れ歯にするかお金とプライドのせめぎ合いの中、日々選択を迫られるこの頃です。

**先日、折込チラシ**にきれいなガーデンングをするエクステリア業者の広告かと見ていたら樹木葬のチラシでした。子供たちに迷惑を掛けたくないとお考えのみなさまへという見出しで永代供養、初回10万円ポッキリと、どこかの呼び込みのよう

な内容でした。家族葬、直葬、プチ結婚式など冠婚葬祭は、だんだんと縮小傾向です。良いことなのかどうなのかまだ判然としませんが人付き合いが昔に比べて弱く希薄になっていること、個人情報保護などで対人関係が内向きになっていることが影響しているのかもしれない。

### まごから面白川柳のご紹介

寝顔見て いつも言えない ありがとう  
予定より 早い帰宅で 見たごちそう  
妻の友来て 当てもなく 家を出る  
俺の方 ばかり見て言う 注意事項  
「私には、夫います。」と 妻寝言  
血縁がないのは家では 亭主だけ  
マフラーの ここまで前の 彼の分  
二番目に 好きな男と いる気楽  
お見合いの 写真修正 もう限界  
スカートの ホックつかんで くしゃみする  
目は一重 アゴ二重 腹は三重  
俺でさえ 言えないことを 孫が言い  
孫の名に 変えて絵本 読んでやる  
運動会 美人に我が子 見失い  
なお変に なって出てくる 美容院  
横の子を あやして泣かれ 席を立つ  
「絶対にヒミツ」飛び交う 昼休み  
乾杯の グラス持たされ 30分

勘定を 払って出たら 誰もいず  
ちよつと声 変えて2度目の 問い合わせ  
もう恋は したくないのと 結婚す  
親孝行 したい時には 職はなし  
お化粧と いうより君のは 変装だ  
マザコンと 言われて母に 相談し  
私から 連絡しなけりゃ 終わる仲  
損をした 話は人に 喜ばれ  
言葉にて 傷つき言葉で 立ち直る  
悪口も 上手に言えば アドバイス  
思いやり 思い上がり と 紙一重  
相合傘 濡れてる方が 惚れている

いろいろと大変な年になりそうな気がしますが、みなさまお体に気を付けて健康で無事で過ごせますよう、お祈り申し上げます。

孫子老太郎



# センターだより



## まごころケア塩釜

「健康マージャン教室」を開設

センター長 坂井 正義

少子化に伴う人口減少・75歳以上の高齢者の急増（塩竈市第7期介護保健計画によると塩竈市の高齢化率は、推計33.5%）地域社会や核家族化等で、従来の家族形態の変容に伴う家族や地域の人々がお互いに支え



あう力が脆弱になってきていると感じていました。

2年前「いきいきと暮らせるまち」をめざし自宅の敷地内に、健康づくり、閉じこもり防止、地域の集まりの場、男のたまり場、お茶のみの場が提供出来る場所として、介護予防事業としての拠点のみならずボランティア活動も含めた地域住民の交流拠点を「まごころ式番館」と名付けて開設致しました。しかし、なかなか軌道にのらないなかで、塩釜市西部包括支援センターの生活支援コーナー（デイネーターとの会話の中で、高齢男性が特に自宅からあまり外出していない傾向があるとアドバイスがありました）

そこで、月一回の「頭の健康体操マージャン教室」を始めました。昨年7月より開催以降参加者の皆様のご協力のもと、和気藹藹のなかで楽しく開催しております。頭の健康体操になると思いますので、参加ご希望の方は、お連絡ください。

送迎もいたします。料金は、参加費とし、お茶代お一人100円です。

連絡電話番号は

☎022-362-2030

まごころサービス塩釜センター

までご連絡ください。

いっしょにたのしみましょう！

## まごころケアサービス 福島センター

事務局員 庄司 美穂

施設周辺では、ふきのとうが顔を出し穏やかな日ざしに、いつしか春の訪れを感じる季節となりました。

私は、まごころに勤務して七年。福島センターの事務を担当しております。子育てをしながら働きたい。子どもが帰って来るまでには帰りたいたい。とワガママを言っていて働かせていただいております。

夏休みには、小学生の娘を連れて出勤し娘はデイサービスで利用者さんとお手玉や魚釣り、輪投げ、トランプなどの対決をし、施設内にいつ

もとは違う、かん高い笑い声と「ヤッター」と喜びの声が事務所まで聞こえ私も混ざりたいと思う程です。

おやつタイムにも混じり初めは緊張し、一心にモグモグ食べるだけでしたが段々と慣れ隣に座った利用者さんと会話をし、孫のように接してくれる利用者さん。優しい眼差しを向けてくれるスタッフ。

まさに「孫・子・老」看板そのものです。

自然いっぱい施設で利用者さんから無数の愛をもらい、のびのびと過ごす娘は幸せ者です。

核家族の為、高齢者さんとのふれ合いは、とても貴重な時間で、娘の心に優しさと思いやりが芽生え、日常、高齢者さんや小さな子どもにも自分から優しく手を差し出し声を掛けられるようになった気が致します。

嬉しい事にデイサービスに来て看護にたずさわる仕事がしたい。と大きな夢が出来、娘の将来が楽しみにになりました。高湯の里のスタッフのように、おおらかで最高の笑顔で接する人になって欲しいと願っております。

こうして子育てと仕事の両立が出

来るのは支えてくださるスタッフと家族のお陰です。

皆様、これからも親子共々どうぞ宜しくお願い致します。

## まごころケア国分寺

100歳のお誕生日を迎えて

介護支援専門員 佐藤 友子

平成27年頃より訪問、通所、居宅介護支援を利用していただいているS・Tさんが、3月12日、元気に100歳を迎えられました。お一人暮らしで、現在は訪問介護のみを利用しておられます。息子さんが毎日見守りに来られており、また昔、近く



でお勤めをしておられた折りの、その家の娘さんが、実の娘のように気にかけてくださっているようです。

はたるの里の庭に咲く、手作りのフラワーアレンジメントとお祝いの言葉を添えて、サービス提供責任者と共に訪問させていただきました。本人曰く「こんなに長く生きるとは思ってもいなかったが、家族や皆に大切にされて、私は幸せ者や。ありがたい、ありがたい」と、そっと手を合わされました。

こちらこそ、大正、昭和、平成、令和と1世紀の間、辛いこと苦しいこともあっただろうに、気丈に明るく生きてこられた姿は、私たちを含めた後輩達の長生きのお手本であり、願わくば、1日も長く可愛らしいSさんの姿を、見せてほしいと願っています。感謝と祈りを込めて・



## まごころケア にっこにっこ三豊

わたしと福祉

デイサービス 前川 高徳

わたしが福祉の仕事に関わるようになって3年が経ちました。

福祉に関わる前のわたしは、自宅での仕事为主で、ろくに近所付き合ひもしない生活でした。今のようになんと深く接する仕事に就くことになるとは思ってもいませんでした。

当時の仕事はずっと続けられると思っていましたので、仕事が行き詰まり別の職を選ばざるを得なくなつた時、深く考えず家族の勧めから介護の道を選びました。

初任者研修で一緒になった、すでに福祉に関わっている人から、この仕事の大変さを聞いても「なんとかなるだろう」とぼんやりと思っていました。

最初に就職した事業所で、これまでデスクワークしかしてこなかった自分は、現場で叩きのめされました。チームの足を引っ張り、何度も迷惑をかけ、その時は一日一日をこ

なすのが精一杯で、とても利用者様の事を考えたりする余裕はありませんでした。「わたしが育ててあげるから負けないで」と引き留めてくださった先輩もいました。この仕事は向いていない。とわたしは退職を選んでしまいました。今思い返しても、その先輩の一言には感謝と申し訳なさで、涙が出そうになります。

しばらく福祉から離れ、送迎の枠で今の『にこにこ三豊』にパートとして入りました。もう二度とやりたくないと思っていた福祉の仕事でしたが、先輩の言葉で、少しずつ慣れて行く道を選べたのだと思います。

やはり今の職場でも失敗を繰り返していますが、本当に皆さんが温かく見守ってください、指導していただき、何とか続けられています。続けることができる利用者様の事を考えられるようになってきました。福祉の仕事に携わるには当たり前前の事ですが、自分ではこの変化にとっても満足しています。

自分の親だと思って利用者様に接するように、と先輩から教わりました。

なかなか難しい事ですが、素晴ら

しい先輩たちに追いつけるように頑張りたいと思います。

今は、にこにこ三豊が自分の家のように思っています。



## まごころサービス 徳島センター

健康長寿を目指すための心がけ

センター長 道辻 明子

二〇二〇年（令和二年）一月十二日笹乃庄で恒例の新春研修会が行われ十八名参加して意見交流をしました。

### （はじめに）

④基礎緩和型訪問サービスA型の取り組みについて今年度は申請中止となりました。

①徳島市は「現在指定訪問介護事業所で予防介護訪問サービスをしている事業所は申請手続き不要で利用料金も現在のままで報酬金額も

現状のままで継続する」との説明がありました。

②NPO法人で基礎緩和型訪問サービス（85%）を追加してA型を始める割合は五月下旬の定期総会で決議して、その後申請手続きと、体制づくりが必要となりますが現時点では困難な状況です。

③気持ちは若くても年令には勝てない現状の中で二〇二一年（令和三年）五月下旬の定期総会でまごころの事務所は閉じる予定になっています。

④助け合いの地域づくりを目標にして28年間励んできて、これからが重要であるこの時に後継者が見つからず諦めきれない気持ちでいっぱいですが、最後まで皆様と共に歩み頑張りぬいて、新しい道を切り開き皆様の幸福と健康を願って努力したいと思っていますので御協力をよろしくお願いします。

### （つづいて）

「病気になる生活習慣」二択クイズ（30問題）にミニ会席料理を食べながら全員がクイズに挑戦。（答は最後）

①階段使用時に脳を活性化させるのは？

A 上るとき B 下るとき

②認知症になりにくいのは？

A 昔のことを忘れない人

B 忘れっぽい人

③一日どれくらい座っているとがんになりやすい？

A 4時間以上 B 8時間以上

④毎日飲むと肝臓がんリスクが減少するのは？

A コーヒー

B オレンジジュース

⑤食道がんになりやすいのは？

A 熱いものを好んで飲む人

B 冷たいものを好む人

正解は

① ↓ B      ② ↓ B      ③ ↓ A

④ ↓ B      ⑤ ↓ A



# まごころケア ぽっかぽか川之江

作成者…谷 智美

2月12日10時、商店街の一角にある駄菓子屋ぽっかりん、この春小学校に入学する幼稚園児達がお買い物体験ということでやってきました。年長組さん13人と引率の先生3人です。今は30うん歳になる長男、次男がかつてお世話になった幼稚園なのですが、当時は確か27、8人はいたと思うので、子供の数が減って



いることを改めて実感しました。

園児たちは、先生から一人100円ずつをもらって、100種類以上ある10円から50円までの駄菓子の中からどれにしようかと銘々選んでいるのですが、時々先生に「先生、これでいくらになる？」とカゴを見せて確認する子もいれば、なかなか決められないのか、カゴに入れたり戻したりしている子、早々に好きな駄菓子をカゴに選んで入れて会計を済ませ奥のスペースで遊び始める子と性格がよく出ていて、見てい



て飽きないなあと思いました。

お会計を手伝ってくれたデザイナービスの利用者さんも緊張した面持ちではありましたが、目を細めて様子を見守りながら、園児達との時間を楽しんでおられました。



駄菓子屋という場所が地域の子供たちとお年寄りをつなぐ社会資源になればと思つて始めたのですが、共稼ぎが当たり前の現在、地域に子供達の居場所が少ないなど感じています。駄菓子屋の店の奥と前にテーブルとイスが置かれているだけで、地域の子供達の談話スペースになっているのを見ると安心して過ごせる場所になりつつあるのかなと感じてい

ます。最近では常連の子達も出来て、値段付けやお会計の手伝いをやりたいと、まるで駄菓子屋さんごっこを楽しんでいるような時もあり、物の値段や計算、お金の大切さ、お客さんへの挨拶などを学ぶ機会になればと思っています。イベントとして始めた駄菓子屋ですが、現在、水曜日と土曜日の週2回営業しています。無駄遣いを抑える上でも毎日ではない、週2日位が適当ではないかと思いい、しばらくは今のままで続けたいと思っています。

ぽっかぽか川之江はJR川之江駅からほど近い商店街の中にあり、法人が運営している地域密着型デザイナービス『まごころはうすかまやん』と『駄菓子屋ぽっかりん』は隣接してあるのですが、商店街にかつての賑わいは無くシャッター街と化しています。これまで、登下校の時間帯以外、元気な子供達の姿を目にする事が少なかったのですが、駄菓子屋を始め、以前より子供達の姿をよく見かけられるようになりました。挨拶してくれる子達もいて、少しづつ地域の子供達との距離が近くなってきたな

と感じてきています。

また、デイサービスのお年寄りと子供達が交流する機会になればと、月一回、『おむすびの日』というのを設け、デイサービスでおにぎりを用意して駄菓子屋に来た子供達に食べてもらったりしていますが、まだまだ交流とまではいっていません。13年前、商店街の一角に地域のいいの場として県の助成金をもらって始めた今の場所ですが、デイサービス開設で7年程休眠状態でした。

一昨年『駄菓子屋ぽっかりん』として思いがけず再開できました。少しづつ形を変えながらではありますが、世代を超えて交流の輪が広がりますようこれからも地域の居場所として、小さな活動につなげていければと考えています。

## まごころケア西春日

これからの展望

センター長 笠井 圭介

みなさま、お変わりないでしょうか。まごころケア西春日では、一月

二日(木)、三日(金)の二日間、新年会の行事を行いました。ボランティアの方々による歌や踊り等、今年も良い年になりますようにと願いながら楽しい時を過ごしました。今年には東京オリンピックも予定されており、楽しみがいっぱいあるねと利用者様同士で話しているのが聞きました。

しかし、これを執筆している時(三月上旬)には、世間では新型コロナウイルスの影響で、様々なイベントが中止もしくは観客を入れずに試合を行うということになりました。学校も安倍総理の一言で臨時休校、最近では共働き世帯も増えています。

ですので、当然困っている人も増えています。

そうになると、何気ない日常がいかほど大切であるかを思い知らされます。早く終息してほしいと願うばかりです。また東京オリンピックも無事にできるのか…そういえば、招致が決まった後に一部の政治評論家等



が東京オリンピックは開かれなと言っていました。まさかこの事態を予想していたのではと疑いたくなります。

利用者様世代の人々の努力によって、我々は快適な生活を享受できるようになりました。これから生きて行くうえで何が起るかわかりませんが、利用者様世代の人々に見習い、我々も何があっても協力して乗り切ることができるよう頑張りたいたいと思います。どうぞこれからもよろしくお願いいたします。

まごころエッセイ

# 七十五歳の 新人

坂本ユミ子さん

62歳/兵庫県神戸市在住。大阪成蹊女子短期大学英文学科卒業。平成十四年から日本生命大阪本社勤務。

(公社)全国老人福祉施設協議会  
第16回「60歳からの主張」  
令和元年度特別賞受賞作品

八年前のことだった。その年は家と店が全壊した阪神大震災に次ぐ大変な年になった。夫が心臓の手術を三回、同居している義父と義母も入院手術となった。幸い手術は成功し、三人とも無事に退院した。わが家はようやく平穏を取り戻した。夫の体調もずいぶんよくなったので、結婚三十周年記念の旅に出ることにした。

行き先は城崎温泉、一泊二日の旅だった。宿泊先は温泉街の川沿いにある、二階建て全十二室の小さな旅館だった。部屋係のスタッフさんは年配の小柄な女性だった。六十歳は過ぎていようだがどこか色気があ

り、チャーミングな人だった。部屋食だったので、彼女は一人で一階の厨房から二階の部屋まで階段を何往復もして、ご馳走を運んでくれた。ときばきとした動きに感心しつつ、いくつなのか気になって食事中に聞いてみた。彼女はしゃんと背筋をのばし、

「七十五歳でございます」

「えっ！若い！六十代に見えますよ」

「この年で仕事があるのはありがたいことです」

「お仕事は毎日？勤務時間は？」

驚きついでに色々と聞いてみた。

週五日勤務で、勤務時間は朝七時か

ら十時と夕方五時から九時、一度家に帰って再び出勤するそうだ。車で通勤していると聞いて、驚きは増すばかりだった。彼女は若い頃から旅館の仲居さんをしてきた。六十五歳の定年後、十年間、別の旅館で働いた後、最近ここで働き始めたそうだ。七十五歳の新人なのだ。「大変ですね」と言うと、とびきりの笑顔で、

「仕事は生きがいでございます！」

「彼女、七十五歳には見えないね。」

きつと、働いているから、若くて元気なのね」

食事の後、夫に同意を求めると、

「ずっと働き続けなければならぬ

い事情があったたのかもしれない。亭主が働かなかつたとか借金があるとか。ボクはあの年まで働きたくないし、君に七十五歳まで働いて欲しくないよ」

彼女の人生はたぶん、いろいろあったのだろう。もし彼女が動かなくても生活できないのなら、幸せな人生とは言えないかもしれない。でも、たとえお金のために働き続ける人生だったとしても、

「仕事は生きがいでございます！」  
笑顔で言い切る彼女は輝いていた。私の会社は定年六十歳だ。六十歳になったら家でのんびりゆっくりしたいと思っていたのだが、彼女に会って考えが変わった。私は定年後も働ける限り働き続けたい。

翌朝、朝食の前に二つ外湯を巡った。夫は疲れたのか行かなかった。朝の外湯は人も少なく、露天風呂はだれもいなかった。朝日を見ながら露天風呂に一人ずつかり、贅沢な気分浸った。宿に戻って階段を上っていると、彼女が下りて来た。両手に荷物を持った彼女は立ち止まり、笑顔で、

「おはようございます。お風呂は

いかがでしたか」

「露天風呂一人占めで、最高でした！」

「それはようございました。朝食

のご用意が来ています」

「ありがとうございます」

彼女は足早に階段を下りて行った。その後ろ姿に私はもう一度、心

の中で言った。

(ありがとうございます)

あれから八年の年月が流れた。私

は昨年三月に定年退職する予定だったが、現在も同じ会社で働き続けている。昨年から定年が六十歳から六十五歳に延長された。働き続けることができてよかった。年金だけで暮らしてはいけない。老後の貯金は足りない。家のローンも残っている。働かなければ暮らして行けないのが現実だ。六十五歳以降も働き続ける予定だ。

働くことはもちろんお金のためだ。でも、それだけじゃないと思う。働くところ飯が美味しい。疲れてよく眠れる。休みが嬉しいのは働いて



ているからだ。肝心の働く場所があるのだろうか？ 選ばなければきつと仕事はある。楽な仕事はない。働くことは辛く苦しくしんどいことばかりだ。人間関係も大変だ。それでも私は働き続けたい。どんな仕事にも「やりがい」は見つけられると思う。

「仕事は生きがいでございますー！」  
彼女のようにとびきりの笑顔で言える天職が見つかるかもしれない。私はいくつになっても働くことで社会や人と繋がってみたい。

終

## はじめに



# 寄稿 「戦争体験を継ぐ」

太平洋戦争が終わり今年の夏で75年を迎えようとしている。実際に戦場に赴いた方々はもとより、子供時代に戦争を体験された方々も徐々に少なくなりつつあります。これらの記憶を風化させることなく後世に語り継ごうと、高校の卒業研究(卒業プロジェクト)のテーマとして取り組んだ研究成果をシリーズで紹介いたします。

こんにちは。野上さくらです。私の卒業プロジェクトのテーマは「戦争体験を継ぐ」です。インタビュー活動を主に活動してきました。「戦争体験を私がおのれたちに伝えるんだ」と意気込んで初めた卒業プロジェクトでしたが、実際は多くの方に支えられながら、私の方が受け取る物の方が多かったように思います。知って、気づいて、考えて。私の中で何がどんどんと変わっていきました。

「戦争体験を私がおのれたちに伝えるんだ」と意気込んで初めた卒業プロジェクトでしたが、実際は多くの方に支えられながら、私の方が受け取る物の方が多かったように思います。知って、気づいて、考えて。私の中で何がどんどんと変わっていきました。

しかし、変化する過程は決して楽しいことばかりではありませんでした。社会のとても嫌なところを見て自分が生きている社会が嫌いになったこともありました。「私のやって

いることには何の意味もない」と無力感に襲われたこともありました。全ての人が敵に見えたこともありました。投げやりにもなりました。それでも、今はその辛かった全ての時間も私に必要なだったと思っています。

**そのことに気づかせてくれたのは、やっぱり私ではなく周りの方々でした。私の卒業プロジェクトはみなさんがいなかったら、多くの人々との出会いがなければ、成り立っていなかったでしょう。みなさん、日本の社会、世界、その一部はかっこ悪くて情けなくて残酷で大嫌いです。ですが、私に勇気を与え、希望を与え、成長させ、そして明るい未来の可能性を教えてくださいましたのもまた世界であり、日本社会であり、みな**



信兵として行ったおじいさんがいらっしやいました。「四十人の戦友と日本を出発して、終戦後帰ってきたのは二人、わかるか？（戦争とは）そういうことだ。」そうおっしゃっていました。私はこんなことを聞きました。「死を間近で見たことありますか。」「そんな、当たり前だ。友達が榴弾抱いて自爆するのをテントの中から見とった。」私は今思えば無神経だったかもしれない

せんが「止めなかったんですか。」ときいてみました。「とめるてったってなく。そんなんじゃないんだよ。でも俺は絶対そんなことはしなかった。こんなんで死ぬのは馬鹿らしいだろ？死んでたまるかと思っていた。それでも思わないと気が狂うんだよ。悲しいとか辛いとか考える暇はなかった。生きること必死だった。」戦争って本当に恐ろしいなと、この時思いました。

**またこんなかたも**いらっしやいました。「僕が通っていた小学校のグラウンドに、死体が一面に並べられててなく。その上にむしろをかけとったんやけど、死体がまだ燃えとる

から、むしろに火が燃え移ってぶすぶすと臭い煙を立てとったんや。僕はそれを眺めてたんや。…うん…」と、とても懐かしそうに、悲しそうにいらっしやいました。自分が通う学校の校庭が死体置き場にされているのを見て立ちすくむ小学生がいたなんて。正直、想像をはるかに超えていました。

### こんな世界を生きてきた人々が、

今日の前にいるということとはとても不思議な感じでした。なぜなら、私の中で太平洋戦争はずっと昔のことだったからです。インタビュー後「なぜ私たちは太平洋戦争を大昔の話だと思ってしまうのだろうか。」と考えました。やはり、知らないからだろうと思えました。戦争があったというでき事だけを教科書などで読んでも、リアリティーがないため昔のことと考えてしまうのだと思います。体験者の皆さんは辛い記憶を無理やり思い出して口にするのはとても辛く、恐ろしいと思います。私たちも辛い思いをさせてまでも、わざわざ聞きたいとは思いません。「平和」と呼ばれる状態は勝

手にできるものとは思いません。辛い過去があつて、そうならないように目指したり保ったりするものなのだと思います。私は「第二次世界大戦中に生きた人たちの体験や記憶をしつかりと語り継ぐ必要がある」と、改めて思いました。

### これから先は、太平洋戦争という

枠は広すぎるので太平洋戦争の中でも地域や出来事などで範囲を絞り、それについての体験を聞かせていただこうと思っています。自分の興味のある部分を探してできるだけ内容を深くしたいです。なので、たくさんの人に少しずつインタビューするというよりは四人ぐらいの方に何度かに分けてインタビューさせていた

### 最終作品は一人一人から聞かせて

いただいたことを冊子のようなものにまとめ、みなさんに読んでいただきたいと思っています。内容は、その方が体験した事実に加えて、戦時中にどんな風に思っていたかということ、「なぜ戦争が始まったかと思うか」「止められたと思うか」「日本

厳しい質問ですが、実際に戦争時代を生きた人からの目線でしかわからないことも聞いて、できるだけ体験が伝わるように書きたいです。

### インタビューするのは八十年代、九

十年代の高齢者の方々に、何と無く聞いても聞きたいことを聞けるわけはありません。聞きたいことを明確にし、何で私は話を聞きに来たのかというのを相手に伝えなければいけないと思います。自分がやりたいことを明確にすることは自分にとっても大切になると思います。テーマ自体が少し暗いのでしっかりと目標や目的がないときつとこのテーマに自分が押しつぶされてしまうからです。なので、これからどんな雲紫を重点的にインタビューしたいのかということも考えていきたいです。以上のことをしようと思うとやはりこの時代だけでも歴史をまなぶことは必須だと思います。だから、歴史を学ぶ自分を想像することができないような状態からは脱して進めていきたいです。発表は以上です。ありがとうございました。

## 第一章 このテーマを決める

### ・一章のはじめに

### ・「日本語の心」

### ・「少年H」

### ・「毎朝朝食に新聞」

### 一章のはじめに

「戦争体験を継ぐ」こんなテーマに決めるまでにはいろんな苦悩がありました、とまではいかなくとも、テーマがテーマだけに決めるのにはそれなりの覚悟がいった。正直このテーマで「卒プロを楽しむ」ことはできないし、「楽しめない」ことを1年半も続けられるのだろうかという不安もあった。それでもこのテーマにしようと思え、そして今まで続けてくることのできた理由は一応ある。

私にこのテーマを選ばせたのは普通の生活の中に隠れているものに対するちょっとした違和感の積み重ねだった。日々の違和感や気持ち悪さが少しずつ積もり、それらが私のテーマはこれだと確信させたのだと思う。

この章ではこのテーマに至るまでに違和感を感じた時のエピソード、そしてこのテーマに至る理由となつたことなどを題にした。私がその後の一年の間にこれほど多くの経験をし、こんなに多くのことを考えることになろうとは思ってもしなかった。そんな、まだ卒プロも始まっていないころの私の話である。

### 「日本語の心」

私たちは十年生（高校一年生）の時、約2週間太平洋戦争について文学作品からその時代を学ぶ、という「日本語の心」の授業を受けてきていた。その授業の終盤、先生がディスカッションの時間を設けてくださった。「みなさん。学んできた太平洋戦争中の日本について思うことをディスカッションしてみましよう。」

私たちは「うーん…」と唸り、「怖そう。」「そんなんがあったとか信じられへん。」「まあ、今はそんなんないと思うけど。」などと語り

合った。いい学びの時間だったことに間違いはなかった。しかし、私はその時の雰囲気は一瞬ゾクツとした。目には見えない、ものすごく恐ろしいものが忍び寄ってくる、と言ったら伝わるだろうか。その「ゾクツと感」が忘れられず、一日二日考えていた。

その感覚は、あの場で話していたほとんどの人が、「昔は昔、平和な時代に生きる私たちには関係ない」という感覚で話していたから生まれたのだと思う。何をきっかけにこう思ったのかはわからないが、とにかく十年生の私はその授業を受けた二日後には「今の日本人は太平洋戦争を学ばないとヤバイ」ということを確信していたのだった。この時初めて、「戦争と平和」についての問題を真剣に考えたのかもしれない。

当時の私の言葉で言うと、「ヤバイ！！」だったが、今では多少語彙力も上がり、もう少しわかりやすく説明できる。

「ゾクツ」としたその感覚は、「また戦争が起こることがあるかも

しれない」と思ったことから生じた反応だったのではないかと思う。私たちはそのディスカッション中、確かに戦争が残酷であり、もう二度と起こしてはいけないものなのだという事に気づいたと語り合った。しかし、それはどこか自分たちは違う場所において、関係のないことのように話しているようだった。そして何より、私自身が「過去に起こったことと、私たちが今生きていることとが関係している」ということを頭ではわかっていても、どうしても実感が湧かなかつた。戦争のことなど遠い昔の話で、私たちには全く関係のない事柄なのだという感覚から抜けられなかつた。その時私は思った。「私たちは無意識のうちに、戦争の記憶を遠ざけているのではないかと。怖かつた。」

このような感覚が平気で生まれるような現代日本の状況はまさに「ヤバイ！！」と思つたのである。

### 「少年H」

十年生の「日本語の心」の授業の

一環として妹尾河童さんの「少年H」を初めて読んだ。その中にこんな会話がある。

「これからは、ピッチャーが投手でキャッチャーを捕手と言わなあかんのやぞ」

「投手捕手はまあええとして、ストライクいうときはよし、ボールの時はダメというんは、なんやスカ屁みたいで力が入らへんなあ」

野球をしながら、Hたちはゲラゲラと笑った。

「ピッチャーのスタルヒンの名前もあかんというの知つとるか？」

「ほな、これからどう呼ぶことになるんや？」

「スタヤ。須田博という漢字の名前に変えさせられたんや」

「スタルヒンが須田というのはヘンやなあ」

それから子供たちは、知っている限りの追放されたカタカナを並べあった。

「たばこのゴールデンバットが金鶏（きんし）になった。バットは蝙蝠（こうもり）やろ、それが神武天皇の弓に止まった金色の鳥になったん

やからえらい昇格や」

大人がクソ真面目になって英語禁止などという決まりを作り、それを子供がなんと馬鹿らしい決まりだろうと笑う。子供な大人と大人な子供。しかしもはや、これも笑えない時代に来ているのかもしれないと、何気なく調べた写真を見て思った。

本を読み終わった後、私は「妹尾河童」とネットで画像検索してみた。そして驚いた。妹尾河童さんの元氣そうな写真がカラー写真で出てきたからだ。失礼な話だが、まだこんなに元気に生きてらっしゃるなどとは思ってもみなかったからだ。「あんなひどい戦争時代を生きて来た人が今生きているわけない」と私は勝手に思っていたのである。

パソコンの画面に現れた妹尾河童さんは「あの日のことはそんなに大昔のことじゃない。」ということをお話してくれた。まだ終戦から百年も経っていない。それなのに、私が百年よりずっと昔だと感じていたことは、もちろん私の知識不足であることが理由である。しかし、「現代の

日本の社会が戦争の記憶を無意識に、または意識的に遠ざけているということも原因の一つとして考えられる」と十年生の私は日本の大人たちにちよつとした怒りを覚えた。

この「怒り」というものはエネルギーを持っており、意外と大切なのではないかと今の私は思っている。大人たちがよくいう「若い力（ちから）」である。社会に対する「怒り」、大人に対する「怒り」は間違いなく私に活動するエネルギーをくれた。間違っていて最低だと思っていた社会や大人から「怒り」というエネルギーをもらい卒業プロジェクトを続けてきたのだから複雑な思いだ。

それはともかく、この時私は少年Hから「全然昔話ではない」ということを学び、「今から私たちはどうなんの？」と考え始めたのである。

### 「毎日食卓に新聞」

私の卒プロは新聞がなかったら始まっていなかっただろう。しばしば新聞に載っている戦争体験者の記

事、今日も続いている紛争の実態を知らせる記事。これらは私に考えるきっかけを与えたからだ。しかし、私が自ら新聞を読むようになるまでには多少の時間が必要だった。

私の家の食卓には小さい頃からずっと、新聞が存在していた。今も毎日、朝刊、夕刊、小学生新聞、英字新聞、様々な新聞が配達される。何を隠そう、私の父は新聞記者なのだ。だから私はちよつと手を伸ばせばたくさんの情報が得られる環境にあった。しかし、だからといって新聞を読むようになるなどということはない。その証拠に、毎朝「昨日は何があつたんやろ」と新聞に飛びつく弟に比べて、私は新聞を手取るのにはテレビ欄をチェックする時だけというなんとも嘆かわしいことをしていた。今は昔に比べればちゃんと内容を読むようにはなったが、一面より先に裏をチェックしてしまうのは治っていない。

そんな私が大切な記事に気づけたのは、両親と弟のおかげであることは認めざるをえない。時々両親や弟はそれらの記事のことで話し合った

りしていたことがあった。最近ではもう一人の小学生の弟もそれらの話に加わっている。そしてもちろん、私は新聞をテレビ欄以外は見ていないのでその会話はちんぷんかんぷんだ。だから私は理解しようと、みんなに何の話か説明させ、たまには話題になっっている記事だけは読むのである。そんなことを積み重ねていくうちに、私は「紛争・戦争」、そして「平和」というワードが出てくる話題に興味を持っていったのである。私に大切なことを気づかせてくれた人たちに感謝したい。

今、この文章を読んでくださっている人たちには、私の過去が知られてしまったわけである。だから、偉そうに「日本人は戦争について無関心すぎる」などとは言えないかもしれない。それでも私は言い続けたいと思っっている。逆に、こんなに無関心だった私が気づけたのだから、誰にだって気づくことはできるはずだと言いたい。

辛い時に、「関心のある人、ない人、老若男女、いろんな人がいる。だが、本当に大切なことは誰にだっていつかはわかる。そして、その人たちと一緒にきつとこれからの未来を創っていく」少なくとも私にはそんな風に思わせてくれる記事がたまに載っている。皆さんもいつか気が向いたらちょっと探してみてほしい。

JMS  
(日本ケアシステム協会)

## 事務局通信

新型コロナウイルスによる影響が全国に広がり、世界中で人や物の移動が制限され終息の見通しが立たない状態が続いています。

こんな時期でも、物事をポジティブにとらえましょうとの意見もあります。

例えばテレワークの推進です。働き方改革で情報機器を使って自宅など職場以外の場所でも柔軟に仕事をするテレワークがこの度のことで、やむを得ず実施せざるを得ない状態です。今回の騒動を契機に普及を加速してはとの意見があるようです。

また、学校現場においても、濃厚接触を避けるためこれまで実現が遅れていたクラス的人数を少なくする取り組みも加速してはとの動きがあるそうです。

いずれにしても、新型コロナウイルスはこれまでの歴史が証明しているように必ず何らかの収束の出口が見つかるはずで、それまでは、手洗い、うがい、換気の励行や濃厚接触を避けるなど、辛抱強くウイルス感染の防止に努めましょう。

東日本大震災から丸9年の春を迎え、当時11歳、小学5年生の女の子が成人式をかえました。幼なじみの同級生は11歳のままですが、心の中の彼女と一緒に成人式を迎えると言っていました。

幼なじみの同級生は当時、両親、祖父の5人家族でした。消防団員の祖父だけが生き残りしました。祖父は今年かつて住んでいた場所に家を建て、亡くなった4人を迎えるのだそうです。東日本大震災にはこんな不条理で悲しいことが山ほどあったに違いないありません。

震災からの復興は、道路、鉄道、住宅地のかさ上げ移転などハード事業はかなりの進捗をみていると聞きました。

著名な映画監督さんはいいます。私たちはこの大震災から学んだことや、得た教訓を生かすきれているだろうか。大切な人をなくし、家族とか絆の大切さを切実にかみしめたはずでしょう。

避難指示が解除された町に、震災当時2万人いた町民のうち5千人が帰ったと報道されていました。また、福島原発から出た汚染処理水の問題が風評被害を生まないか心配です。



介護保険業務の  
様々なご要望にお答えします

介護保険トータルシステム「Rely II」  
株式会社  
**アール・シー・エス**

高松市錦町2丁目2番17号  
西日本放送錦町ビル  
TEL:(087)804-8811  
FAX:(087)826-5010

はじめて  
**まいたうんメール便**  
です

高松メールセンターからのご案内

メール便… **ハガキ** **封書** **カタログ** など

**激安価格で  
配達します**

お問合わせは  
こちらから 四国メールネットワーク協同組合  
**(有)タウンネット 高松メールセンター**  
高松市朝日町4丁目10番60号  
TEL.087-813-0426 FAX.087-813-0436  
E-mail takamatsu@carol.ocn.ne.jp  
http://www.shikoku-mp.com/

www.sanuki-taberu.net

**讃岐を  
食べ  
なつと**

こだわりの味  
「みぎわのうまいもん」を直送します!

www.sanuki-taberu.net

株式会社 ウエイ企画 〒760-0062香川県高松市堀上町2-2  
TEL:087-837-1159 | FAX:087-897-3007  
コーポレートサイト http://www.network-way.com

あいおいニッセイ同和損保代理店

**(株)フリーエージェント**

八田 和忠 

\*損保・生保・社会保険労務士\*  
扱っています。

高松市伏石町 2028-2  
TEL 087-816-8123  
FAX 087-815-1171

ハイエース・シエンタ・エスクエアなど  
福祉車両のことなら  
香川トヨペットにお任せください!

**Welcab**

**香川トヨペット**  
定休日 月曜日 本社/高松市香西南町577-2  
<https://www.kagawa-toyopet.com/>

詳しくは香川トヨペットまでご連絡ください。  
**087-882-5561**

総合印刷・イベント事業・マニュアル制作  
デジタルコンテンツ企画制作

**SEIKO-SHA**  
株式会社 **高松** **東京**

**成光社**

〒760-0065 高松市朝日町5-14-2  
☎087-823-0222 ☎087-823-0211  
www.seiko-sha.co.jp

**実務者養成施設**

介護福祉士実務者研修 < 通信課程 >

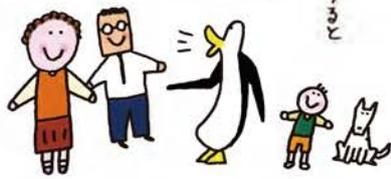
★4月から翌年3月まで毎月受付  
「年12コース」各コース定員24名  
★全国どこからでも応募できます  
★スクリーニング(通学)は  
「医療的ケア演習」を含み6.5日間

【照会先】 ラポールカレッジ 研修所 / 事務局  
TEL 087-815-0760

〒761-8052 高松市松並町 802 番地 1/ 日本ケアシステム協会内  
駐車場有り(無料)/ 宿泊 1,000円～

地域とともにこれからも。

あつて  
おはなしすま  
もつと  
つたあるね



**香川銀行**

トモニホールディングス

**消防設備士の店**

**四国防災設備  
有限公司**

消防設備保守点検

〒761-0612 香川県木田郡三木町氷上1833-6番地  
TEL(087)898-3913  
FAX(087)898-8801

**ご利用ください。**

E-mail (電子メール)

  
magokoro@hyper.ocn.ne.jp

URL (ホームページ)

  
<http://www.jp-care.gr.jp>

**編集後記**

新たに2020年を迎え、オリンピックも日本で開催される素敵な年に新型コロナウイルスが流行し、大変な日々をお過ごしかと思います。

沢山のイベントや行事が中止や延期になり、思い出に残る卒業式等にも影響が出ました。

この世界中に広がっている新型コロナウイルスの対策が、一日も早く成功するよう願うばかりですが、しばらくは皆様とともに様々な感染防止対策に努めたいと思っています。

どうか体調にお気をつけて、お元気にお過ごしいただきますよう、またご活躍をお祈りいたします。

全国まごころケアネット  
 特定非営利活動法人 日本ケアシステム協会  
 まごころケアサービスセンター

センターの名称	住 所	Eメール	TEL	FAX
本 部	〒761-8052 香川県高松市松並町802番地1	magokoro@hyper.ocn.ne.jp	087-815-0771	087-815-0773
まごころケア旭川	〒070-0037 北海道旭川市7条通8丁目セントラル7条ビル202号室	magokolo@tmt.ne.jp	0166-26-8639	0166-74-3172
まごころケア塩釜	〒985-0043 宮城県塩釜市袖野田町39-2	jms@cocoa.ocn.ne.jp	022-362-2030	022-362-3303
まごころケアサービス 福島センター	〒960-2262 福島県福島市在庭坂字南林60-2	magokoro@safins.ne.jp	024-573-7539	024-591-5441
まごころケアサービス 二本松センター	〒964-0903 福島県二本松市根崎1-9	kuwabara.masaaki@ivory.plala.or.jp	0243-22-0112	0243-22-0112
まごころケア国見	〒969-1761 福島県伊達郡国見町大字藤田字南54-2	magokoro923@yahoo.co.jp	024-585-5923	024-585-5924
まごころケア千葉	〒262-0033 千葉県千葉市花見川区幕張本郷1-23-15 グランドウール第2 107号	magokoro12315@nifty.com	043-274-9711	043-274-9718
まごころケア横芝	〒289-1738 千葉県山武郡横芝光町鳥喰上2283		0479-82-1762	0479-82-1835
まごころケア京田辺	〒610-0331 京都府京田辺市田辺北川44番地	sqkg13630@leto.eonet.ne.jp	0774-64-3722	0774-64-3722
まごころサービス 岡山センター	〒703-8232 岡山県岡山市中区関19番地1	magokoronowa@mx4.et.tiki.ne.jp	086-278-2926	086-278-2966
まごころサービス 倉敷センター	〒706-0001 岡山県玉野市田井3-12-18	rappyon@lime.ocn.ne.jp	0863-31-6640	0863-31-5110
まごころケア高松	〒761-8052 香川県高松市松並町802番地1	magokoro@hyper.ocn.ne.jp	087-865-8001	087-865-8039
まごころケア国分寺	〒769-0102 香川県高松市国分寺町国分1284-1	ajisai@eagle.ocn.ne.jp	087-874-6625	087-874-6685
まごころケアにこにこ三豊	〒767-0001 香川県三豊市高瀬町上高瀬1883-1	nikoniko-mitoyo@shirt.ocn.ne.jp	0875-73-6750	0875-73-6751
まごころケア丸亀	〒765-0032 香川県善通寺市原田町1317-7	tyusan.n-377-p4376-o@wing.ocn.ne.jp	0877-64-0278	0877-64-0279
まごころケア屋島やすらぎ	〒761-0111 香川県高松市屋島東町1414	mailka1584yasuragi@swan.ocn.ne.jp	087-843-9590	087-841-3853
まごころケアサービス 大川センター	〒761-0904 香川県さぬき市大川町田面1198	okawa@samariya.or.jp	0879-43-3191	0879-23-2712
まごころケア西春日	〒761-8051 香川県高松市西春日町1510番地1	keisuke64kasai@gmail.com	087-869-1165	087-869-1195
まごころサービス 徳島センター	〒770-0923 徳島県徳島市大道3丁目22-1	magokoro@coral.plala.or.jp	088-624-6578	088-624-6585
まごころケア ぽっかぽか川之江	〒799-0101 愛媛県四国中央市川之江町1660-1	tani280610@yahoo.co.jp	0896-59-1150	0896-59-1150

「日本ケアシステム協会」会報

令和2年4月1日 発行No.151

発行所 〒761-8052 高松市松並町802番地1  
 TEL087-815-0771 FAX087-815-0773  
 編集発行人 兼間 道子  
 郵便振替 口座番号 01610-0-92689  
 印刷所 (株)成光社

まごころケア高松

NPO法人 長寿社会支援協会

〒761-8052 高松市松並町802番地1  
 TEL087-865-8001 FAX087-865-8039  
 E-mail magokoro@hyper.ocn.ne.jp  
 URL http://cho-jyu.info/